

(様式第4号)

上田市庁舎改修・改築検討委員会 会議概要

1 審議会名	上田市庁舎改修・改築検討委員会
2 日 時	平成29年8月21日 午前10時30分から午前11時50分まで
3 会 場	上田駅前ビルパレオ5階会議室
4 出席者	高木直樹会長、丸山正明副会長、伊藤英一委員、金井美奈子委員、小山陽三委員、藤川まゆみ委員、不破泰委員、宮本智夫委員
5 市側出席者	神代総務部長、清水庁舎整備担当参事、翠川都市建設部長、山口財政部長、海瀬行政管理課長、宮澤危機管理防災課長、若林庁舎整備室長、田村建築課長、梅原建築担当係長、小林庁舎整備担当係長、宮原庁舎整備担当係長、渡辺行政改革担当係長、市村行政管理担当係長、吾妻庁舎整備室主査、野田建築課主任、坂口庁舎整備室主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	平成29年8月30日

協 議 事 項 等

1 開 会
2 報告事項
(1) 第12回検討委員会について
・資料に沿い、8月2日(水)に開催した第12回検討委員会の会議概要について若林庁舎整備室長から報告
3 検討及び協議事項
(1) 上田市庁舎改修・改築基本計画 素案について
・資料に沿い、若林庁舎整備室長から上田市庁舎改修・改築基本計画 素案について説明
・以下、協議
(委 員)・前回の会議のときに、「もともとが44億から50億と言っていたものが、いつの間にか70億に増えてしまうようになることは絶対に誤解は避けたいといけない」という話があった。私も、そこが市民目線からすると一番気になるところだと思う。
・今回、2ページには「改築の事業費は44億から50億」と書かれていて、一方で、31ページのところには「60億から74億」と書かれている。この前提となる「44億から50億というのは、現在の庁舎の規模と同じ8,600㎡で考えた時の価格である」ということ、一方で「60億から74億というのは、建て替えるなら耐震化だけではなく、利便性の向上、災害への対応ということも入れると最低限10,000~13,000㎡になって、その結果、60億から74億になる」ということを書き足す必要があると思う。あちこち見ないとわからないのではなく、そこを見れば全部ストーリーがわかるようになっていけばいいと思う。
(会 長)・24ページの新本庁舎の規模というところで、「8,600㎡では足りなくて10,000~13,000㎡が必要だ」ということは書いてあるが、そのことを31ページにも「8,600㎡では不足するから10,000~13,000㎡を考えると60億から74億になる」と書いたほうがいいのかという意見である。ここは誤解を受けたくないところなので、その辺を考えてほしい。
(事務局)・面積と事業費のところで別々の書き方をしてあるので、最後のところでしっかりまとめた形にということを考える。
(会 長)・この別紙1(庁舎改修に係る地方債について)は素案とは別で出すのか。
(事務局)・資料として資料編の中に付けようと思っている。
(会 長)・これだけ単純に見ると、合併特例債と緊急防災・減災債を使うのが一番有利かと思うが、必ずしもそうではない。他の事業との関わりで、総合的に市として判断していくということになるので、そこまでは書き込めない。

- (事務局)・まだ最後の調整をしていて、基本計画の段階では示せないという状況である。
- ・31 ページにあるように、「有利な起債の活用など財源配分は、現在行っている実施計画策定の中で市全体の事業の中から」と入れさせていただいたということでご理解いただきたいと思う。もし、説明会等で質問が出れば、こういった説明をしていきたいと思う。
- (委員)・これを見ると合併特例債、緊急防災・減災事業債を使うのが一番有利だと、誰が見ても見えるが、説明会で聞かれたときに、「基本的にはこうだ」というのは何か持っていないといけ
ない。
- (事務局)・9月末に市民説明会とパブリックコメントを行う予定である。市の実施計画の策定は、例年だと10月の半ばぐらいになり、そこで市全体の事業の中からどの事業を実施計画に位置付けて、財源は何を使うかというようにやるので、市民の説明会の時点では、今日のこの冊子に表現をさせていただき表現方法がここまでだという感じで、そこはご理解いただきたいと思う。
- ・質問が出れば、一番有利な方法とすれば本庁舎は合併特例債、南庁舎は緊急防災・減災債という説明をさせていただく。市全体の中の調整がこれからあるので、そこはそれを踏まえて決定させていただくというような話をさせていただくようになる。
- (委員)・4ページの「ライフサイクルコストを縮減し、既存ストックを活用したコンパクトな庁舎」というところにエネルギーや、いろいろなことが含まれていると思うが、「施設の維持管理、修繕、設備の更新・改修がしやすく、解体、廃棄までに必要な全体経費を軽減できる、経済効率性の高い庁舎」という記載内容だと、ランニングコストも含まれているが、解体・廃棄のことは書いてあっても、ランニングコストという言葉が書いていない。皆さんが関心があるのは、これから負担するランニングコストとだと思うので、ランニングコストという概念を、4ページの最後のところに加えてもらえると納得しやすいと思う。
- (会長)・もちろんランニングコストもライフサイクルコストには入るわけだが、「ランニングコストを縮減し、解体・廃棄までに必要な全体経費を軽減できる」というようなことを書いてあると、市民的には納得しやすいのではないかという意見だと思う。適切な言葉を探してもらえればと思う。
- ・省エネルギーのことは書いてあるので、「省エネでランニングコストを安くする」ということだけでなく、「いろいろなことを考えて、ランニングコストも縮減することについて考える」ということをしっかり書いてほしいという意味。
- (委員)・ランニングコストという言葉がどこにも出てきていない。ライフサイクルコストは、ここにもここにもお金がかかるというイメージで使うことが多い。
- (会長)・ただ、実際にはランニングコストが非常に大きな部分を占めていることも間違いないので、イニシャルの費用とランニングコストが大きく、廃棄はそれに比べると若干少ないと思う。一番大きいランニングコストのことは何も触れていないが、言葉として触れておいてほしいという意味だろうと思う。
- (事務局)・入れるように検討させていただく。
- (委員)・5階建て、6階建てということには一切触れていないが、その辺りはどうか。
- (会長)・法規をクリアしようとする、6階建ては可能か。
- (事務局)・設計がこれからなので、詳細に検討しないといけない部分があり、6階建てでもできる可能性もあるのではないかという目論みをしている。ただ、ここで6階建てと書いてしまうと、やらなくてはいけなくなるということもあり、そこまでの表記は厳しいかと思う。
- (委員)・当然、集約すべき職員の総数630名とも関係してくると思うが、「この630名の中には、例えば、どこが入るんですか」と聞かれたときに、これでいいのかどうか。
- (事務局)・教育委員会が本庁舎に入った方がいいという意見、要望があり、今回、市民の利便性の向上を図るために、教育委員会は本庁舎で業務ということである。加えて、北庁舎の窓口の部分等も入れたいということがあり、はっきりこの課とまで記載はできないが、新たに100名ほどを本庁舎に持ってきて、コストとの絡みになるが、どうしても入らず、本庁でなくてもいい部分は、分庁ということも想定して、630名ということを示させていただいた。市として、

当面、まずはこういうことでやってみようと考えているということである。

- (委員)・前提とすれば、これでいいと思うが、市民説明会のようなところで、細かいところを聞かれたときに、ある程度のことは答えられないと。
- (事務局)・言いたいところだが、言ってしまうとそれが足かせになったりする部分があり、なかなか難しい。今言ったようなものを足していくと、言いたいそのくらいになるのではないかということである。設計していくのにも、前段のところがしっかりしないと、ということがあるので、目標的な数字だが、示させていただいたということである。
- (会長)・上田市民である委員の方は、そういう非常に細かい、かつ具体的なことを聞かれる場があるのかもしれない。そのときに、「よくわからない」としか言いようがないということである。場合によっては、東庁舎の機能を本庁舎に移して、違う部署が東庁舎にということもあるのだろうということだと思う。
- ・最終的には、新しくできる本庁舎に全部集約するのが、ランニングコスト的な点からは一番いいということはわかりきっているが、そう行くかどうかはなかなか難しい。
- (委員)・前回の委員会でも出た、「この場所は会議室、この場所は市民の交流広場と限定しないで、もう少しフレキシブルに使うことで、面積も縮減できるのではないか」というニュアンスはどこかに入っているか。
- (事務局)・23ページの配置計画の中に記載させていただいている。市民利用のスペースということで、庁舎整備の方針のときに意見をいただいていたが、外部の配置も含めてということもあり、3-2の配置計画の「市民が気軽に利用できるスペース等の確保について」ということで、「基本設計で検討することとします」と書かせていただいた。
- ・当然、検討委員会でいろいろな意見が出たということは、基本設計の段階で伝えて、市民からもそういう要望があるということで設計に入ってもらおうと考えている。ただ、面積が思っているほどとれるかどうかは、設計をやってみないとわからない部分があるが、外部の利用ということと併せてできればと思う。
- (委員)・この整理表に書いてある元の案はあるということ念頭に置いていただくということだと思う。
- (委員)・先日、岩手の紫波町というところに行ってきた。市役所も図書館も宿泊施設も保育園も向かい合った中心に芝生の公園があるところで、特別、市役所に用事がないのに、たくさん市民がいて、机と椅子があるような東屋が9か所ぐらいあり、特別な用ではないが、あそこで勉強をしよう、あそこで打ち合わせをしよう、集まろうかというようなスペースで大人気だと言っていた。上田市役所の周辺にはそこまでスペースはとりにくい、住民票をとるときだけ行く市役所でないというニュアンスはすごくいいと実感した。そういうものを、ぜひ基本設計のときにお願したい。
- (委員)・以前も話したが、東日本大震災以降、新しい市役所は、「みんなの広場」のようなコンセプトで造られていることが多いようなので、ぜひ願いたい。
- (委員)・場所をとりあえず確保して。
- (委員)・そんなに削らなくても、設計次第でできると思う。
- (委員)・小さくてもということだとは思いますが、スペースの問題もある。
- (会長)・紫波町とは敷地面積の余裕の度合いがまったく違うので、そこは比較はできない。もし、今後そういうスペースを作れるとすれば、駐車場をいかに減らすかしか方法は無い。駐車場をできるだけ確保しながら芝生広場もというのは難しいだろうとは思う。
- (委員)・芝生広場でなくてもいいと思う。
- (委員)・駐車場をイベントスペースなどに活用できる可能性もゼロではないと思う。
- (会長)・それはできると思う。「この日に関してはこういうイベントをするので市役所に車で来ることはできません。その代わりお祭りができます」という利用の仕方はあり得る。
- (委員)・駐車場と庁舎のつながりがあるような設計だといひ。
- (事務局)・今でも盆踊りのときは市役所にやぐらを設けている。
- (会長)・そのイメージである。

- (委員)・何十億もかけて造るので、そういうことは市民に喜ばれると思う。
- (委員)・東屋まで作らなくても、建物に沿って植栽をしたその下にベンチを置くだけでも、というイメージである。
- (委員)・小諸の図書館のテラスのようなものが、市民が利用しやすいようにあるというぐらいでも、ずいぶん違うと思う。
- (会長)・基本計画の中に入れろという話ではなく、「こういう議論が出ているということ、基本設計をする段階で反映できるといい」という意味だと理解をしている。おっしゃっていることは、そのとおりだろうと思う。
- (事務局)・今の例は、町なので、コンパクトに、そういったものが一か所に集中して、公民館、公園、役場等があり、それを複合的にうまくやるようにというコンセプトで造られたのではないかと思う。上田市の場合はそういったものがいくつか、ある程度拠点的に、合庁の周辺、あるいはサントミュージアの周辺、商店街、駅、市役所、城跡公園と、いろいろなものが広がりを持ってそういったものを持っているというのが上田市の街の形かと思っている。もちろん市役所にも今よりはそういう機能があってもいいかとは思いますが、市役所だけでなく、そういったものを複合的に回ってもらったりということもあり、市役所だけにそういうものを造るというのはなかなか難しい。
- (委員)・規模が小さくても「市民にも開いています」というような姿勢が見えればいいと思う。
- (委員)・今、住民票はコンビニでもとれるようになっているのか。
- (事務局)・上田市の対応としては、住民票と印鑑証明の二つがとれるようしている。戸籍をどうするかというのは、今後の検討ということで研究している。
- ・売店はどこかに配置はしていく必要はあるかと思う。その売店の形式を、今あるような売店でいくのか、あるいは、コンビニ形式にもっていくのか、コンビニでいけば、今のようサービスも可能になり、1階に置いて外から入れるようなやり方もできれば、市民の活用の方も広がるが、そこも設計の中で検討していきたいと思う。
- (委員)・住民票をとりにくる機会もだんだん減っていくとすれば、将来、窓口機能も、もっと縮小されていくのかと思う。設計ではフレキシブルにということを考えてもらえるとと思うが。
- (委員)・コンビニが入ると、休みなく開いている必要が出てくる気がする。
- (事務局)・外から入れる形式もあるかもしれない。近くにコンビニがあるので、そことの整合も検討しなければいけないと思う。
- (委員)・最終的に基本計画から基本設計に入る段階において、いろいろな意見が出た中で、「これとこれとこれだけは」ということでお願いするということだが、この前言ったとおり、市役所は1年のうち120日は閉まっている。だから、市民サイドで考えなければいけない部分と、役所サイドで考えなければいけない部分の考え方、それから、将来の少子高齢化時代に向かっているいろいろなものの考え方をうまく設計の段階に入れてもらわないといけない。特に設計の段階では、将来のことも見据えながらやっていくということが必要だと思う。
- (会長)・上田市がどのようにまちづくりをしていくのかという全体像があって、その中で市役所の庁舎がどういう機能を持っているかという話なので、この委員会の中だけで決められることではない。
- ・我々が今できることとしては、できるだけフレキシビリティを持った計画である。何かあったときに、「市役所がああいう機能を持っているが故に、このときは本当に助かった」と、あとから言ってもらえるような市役所になればいい。
 - ・120日の休みの日に、ここがどうあるべきかという部分は、ぜひ、基本設計をやるときに考えてもらえると非常に魅力的にはなるだろうとは思っている。ここに書きようがない部分ではあるが、23ページの「市民が気軽に利用できるスペース等の確保について、法令、構造、コストなどを含めて総合的に敷地全体について」というところが活けるといいという議論は散々あったということで議事録には残しておいてほしい。

協議結果：○今回の検討委員会で出された意見を踏まえて基本計画（素案）を修正し、基本計画（案）

とする。修正内容の確認については会長に一任する。
○検討委員会での議論が基本設計においても活かされるよう検討する。

4 その他

- ・基本計画（案）の市民説明会を9月25日（月）～28日（木）の4日間実施する。
- ・基本計画（案）パブリックコメントを9月中旬から下旬にかけて実施する。
- ・第14回の検討委員会は10月10日（火）または16日（月）のどちらかで開催する予定。

（委員）・前回の市民説明会で「説明会の告知があったのか」というような意見があったので、告知がうまくできればいいと思う。

（事務局）・広報には9月1日号に掲載される予定である。新聞でも発信してもらえればありがたい。その他の媒体、ケーブルビジョン、有線放送等でもPRしたいと思っている。

- ・委員の皆さんもご都合をつけて出席をお願いしたい。